

第32回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和6年10月8日（火） 14：00 ～ 15：00

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館5階共用A会議室

3. 出席者 原子力委員会

上坂委員長、直井委員、岡田委員、岡嶋参与

内閣府原子力政策担当室

山之内参事官、武藤参事官、新井主査

日本原子力研究開発機構

中野センター長

原子力国際協力センター

鳥羽センタープロジェクトアドバイザー

日本原子力産業協会

森野課長

4. 議 題

- (1) J a p a n－I A E A原子力エネルギーマネジメントスクール2024の開催について（日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センター センター長 中野佳洋氏）
- (2) 中国電力株式会社島根原子力発電所の発電用原子炉の設置変更許可（2号発電用原子炉の変更）について（答申）
- (3) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所（南地区）の原子炉設置変更許可（高速実験炉原子炉施設の変更）について（答申）
- (4) その他

5. 審議事項

（上坂委員長）時間になりましたので、令和6年第32回原子力委員会定例会議を開催いたします。

9月30日付で岡嶋成晃様が原子力委員会参与に任命されましたので、御紹介いたします。

それでは、岡嶋参与から一言お願いいたします。

(岡嶋参与) この度参与を拝任いたしました岡嶋成晃です。

これまでの知見等を基に、未来に向けて人類の幸福と福祉に役立つような原子力分野の科学技術を安全かつ有効に利用することに微力ながらも寄与していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

(上坂委員長) どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題ですけれども、一つ目が J a p a n - I A E A 原子力エネルギーマネジメントスクール 2024 の開催について、二つ目が中国電力株式会社島根原子力発電所の発電用原子炉の設置変更許可(2号発電用原子炉の変更)について(答申)、三つ目が国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所(南地区)の原子炉設置変更許可(高速実験炉原子炉施設の変更)について(答申)、四つ目がその他であります。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(山之内参事官) 一つ目の議題は、J a p a n - I A E A 原子力エネルギーマネジメントスクール 2024 の開催については、日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター、センター長、中野佳洋様から御説明いただき、その後、質疑を行うものでございます。

本件は、「原子力利用に関する基本的考え方」の3の9「原子力利用の基盤となる人材育成の強化」に主に関連するものとなります。

それでは、中野センター長から御説明よろしくお願いいたします。

(中野センター長) 御紹介ありがとうございます。日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター、センター長の中野でございます。

では、資料に基づき説明させていただきます。

資料1ページ目、原子力エネルギーマネジメントスクール、一つ前に戻っていただくと、表紙、すみません。

こちらの方、ホスト機関を書かせていただいております。開催は日本側のホスト機関の主催ということで、日本側のホストとしては、原子力人材育成ネットワーク、東京大学原子力専攻、東京大学原子力国際専攻、日本原子力研究開発機構、日本原子力産業協会、原子力国際協力センター、これらホスト機関の主催により、あと I A E A の共催ということでございます。

じゃ、次お願いします。概要でございます。

まず目的でございますけれども、将来、世界各国のリーダーとなることが期待される若手

人材に原子力に関連する幅広い課題について学ぶ機会を与えようというものでございます。

対象者は、各国の原子力政策・規制組織の担当者、技術者、研究者などでございます。

開催期間ですけれども、本年の8月20日火曜日から9月6日金曜日までで、約3週間にわたっての開催でございます。

開催地ですけれども、東京都文京区の東京大学本郷キャンパスです。こちらの方で行いました。初日の開校式などは弥生講堂一条ホール、あと講義などは工学部の8号館、こういったところをメインにし、あとは施設見学などで福島などを訪問してございます。

研修生ですけれども、今回、外国からは19名が参加でございました。うち、女性が5名で、日本人研修生は13名、うち女性2名ということで。あと、この会場でありました東京大学の方から学生さんが2名、1名は外国の方、1名は日本の方というような形で参加してございます。

研修生のそれぞれの国ですけれども、ブラジル、ブルガリア、エストニア、ガーナ、インド、ヨルダン、カザフスタン、マレーシア、フィリピン、ポーランド、サウジアラビア、スロバキア、スロベニア、ベトナム、海外14か国に加えて日本ということでございます。

日本人研修生の所属ですけれども、電力さんから3名、メーカーさんから8名、JAEAから2名となっております。

下に開校式の写真を載せてございます。一条ホールで撮った写真でございます。中央に上坂委員長に御臨席賜りまして、御講演もいただきました。この中央に上坂委員長、あとは2人目の左隣がIAEAからの担当者でございます。こういった開校式の写真を載せてございます。

では、次のページへいきます。具体的な内容に入ります。

講義ですけれども、講義総数、31コマでございます。分野ですけれども、エネルギー戦略ですとか、核不拡散、国際法、経済、環境問題、原子力知識管理等、こういった分野の講義を行ってございます。

次に、コアトピックスと書いてございます。あと、その下にはエレクトィブトピックスと書いてございます。このコアトピックスと書いてありますのは、このマネジメントスクール、日本だけでなく世界各国で開催されているわけでございますけれども、ある程度それぞれのスクールの質を担保するといったことで、一定のレベルは担保するというもので、まずこの講義についてはどのスクールも共通でやってくださいといったものがコアトピックスになってございます。

講義資料につきましても IAEA 側が作成したものを用いているというふうな形になっております。原則としては IAEA 側の講師が担当するというようなことが多いんですけれども、当然、日本の開催ということで、IAEA の担当講師全員が日本に来るということになると、予算的にも困難ですのでいくらかの部分は日本が担当するというふうな形になってございます。IAEA 講師が 8 名で 2 コマ、日本人講師が今回は 2 名で 2 コマというふうな形になってございます。

エレクトィブトピックスの方は、これは各国のスクールで独自に行うことができる講義とになってございます。日本のスクールでは、こういった 7 コマの講義を行ってございます。日本における原子力政策、内閣府原子力委員会、経産省、これが 2 コマ。原子力への AI 活用、あとは福島第一原発における作業者の被曝線量管理、福島第一原発事故の教訓、日本の原子力技術、新型炉についての紹介の講義。こういう方たちで、今、日本の取組などを紹介するというふうな形で、日本スクールの特色を出すようにしております。

講義のほかに、一つ、グループワークというものがございます。グループワークは、研修生が何グループかに分かれまして、シナリオプランニングという組織学習の手法を用いて、多様な将来シナリオを踏まえて、既存の原子力産業界からのスピノフ等による新事業を提案していくということで、何日間かにわたって研修生、グループに分かれてディスカッション、議論をして、その結果を私ども講師、聴衆を前にプレゼンをやっておってというような形です。私たちが出資者という形、聴衆は出資者というような形になって、研修生が出資者に対して事業計画のプレゼンを行います。最も魅力的な提案をしたチームについて表彰をするというふうなことであります。

めくっていただきまして、スクールの内容の 2 番目です。テクニカルツアーになります。

テクニカルツアーですけれども、3 週間のスクールですけれども、第 1 週は主に講義を中心に東京大学で、第 3 週も講義を中心に東京大学で、第 2 週はテクニカルツアーというふうな形で、1 週間をテクニカルツアーに充ててございます。

今回訪問した施設でございますけれども、まず一つ目が中部電力の中部電力「浜岡原子力発電所」、JAEA の原子力科学研究所の「核不拡散・核セキュリティ総合支援センター実習フィールド」、あと富岡町の文化交流センター「学びの森」、東京電力福島第一原子力発電所、JAEA 櫛葉遠隔技術開発センター、JAEA 大洗研究所の「HTTR」と「常陽」でございます。

今回この中部電力「浜岡原子力発電所」を組み込みましたというのも、これから日本はど

んどん原発で再稼働を果たしていくわけですが、これまでは過去は福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所、福島地域を中心に見学してまいりましたけれども、これからの再稼働をしていく原子炉がどういった安全対策を施して再稼働に向かっているか、そういったところも紹介したいというふうなところで、浜岡原子力発電所を見学するというふうな形にいたしました。

下の方に細かい日程表を付けてございます。東京がメインですので、ちと浜岡まで遠いんですけれども、1日掛けて、午前中は丸々移動、午後に見学して、ちょっと遅めの時間ですが、また東京に戻る、そういった形で、翌日27日火曜日は今度は茨城方面に移動するというふうなことで、午前中移動、午後にはJAEAの原子力科学研究所の実習フィールドで、講義及びその実習フィールドの見学というふうな形になってございます。

それが終了した後、福島の方へ移動しまして、福島に宿泊、8月28日水曜日からは福島地域の見学ということで、午前中は学びの森でグループプロジェクトを行い、午後は福島第一原子力発電所の見学を行いました。

翌29日、木曜日は午前中はJAEA櫛葉遠隔技術開発センターを見学しまして、午後はカントリーレポートです。研修生、それぞれの国の原子力に関連する状況などを報告していただくというふうな形で、カントリーレポートを午後に組み込んでございます。

それが終わりますと、金曜日、東京に戻るというふうなことで、戻る途中の茨城県大洗に寄っていただきまして、JAEAの大洗研究所の「HTTR」と「常陽」を見学し、午後は東京に戻るというふうな形でございます。

次のページに施設見学の様子、写真を載せてございます。浜岡の写真は3枚です。原子炉建屋内の5号機中央制御室見学者ギャラリーにて中央制御室や建屋最上階・取水塔、技術伝承を目的とした「失敗に学ぶ回廊」及び防波堤を視察したというふうなことでございます。研修生の記念撮影を載せさせていただきました。

次めくっていただきまして、5ページ目ですが、こちらは上が福島第一原子力発電所の見学の様子です。こちらの方は、福島第一原子力発電所の1号機から6号機までの廃炉の状況を見学することに、一番右の写真でございますけれども、ALPS処理水の説明などもしていただいたというふうな形でございます。

下の部分ですが、これは原子力機構関連の様子でございます。一番左が核不拡散・核セキュリティセンターの方のバーチャル空間上に仮想施設を構築して行う、核セキュリティ、保障措置関連の実習を疑似体験いたしました。

あと真ん中の方ですけれども、檜葉の試験棟にていろいろ見学したんですけれども、会議室で説明を受けている写真でございます。

一番右は、HTTRの写真でございます。

めくっていただきまして、6ページでございます。

2024年スクールの特徴というふうな、先ほども少し簡単に触れましたけれども、今回、浜岡原子力発電所を見学したというふうなことで、新規制基準への適合性確認審査及び申請準備中の発電所の放射線管理区域内の原子炉建屋を視察いたしました。

あとは防波堤です。敷地前面の海側に沿って総延長1.6キロにわたって設置された幅12メートル、高さ22メートルの防波堤を視察いたしました。

過去に経験した事故から学んだ教訓、蓄積したノウハウをパネル・実物や当時の新聞記事を展示して技術伝承していくための「失敗に学ぶ回廊」を視察いたしました。

あと、その下ですけれども、特別企画として二つ紹介させていただきます。

一つは、卒業生セッション。卒業生セッションはどういったものかと申しますと、このマネジメントスクールの卒業生、そのうち母国及び国際機関で幹部職員になっている卒業生2名の方をオンラインでつなぎまして、NEMSに参加したことがその後のキャリアにどのように役立ったかということを紹介していただき、それと同時に今年の研修生と意見交換などを行ったということでございます。

あと、もう一つの特別企画ですけれども、男女共同参画に関する企画でございまして、IAEAの開発した男女共同参画に関するプログラムを実施いたしました。こちらにつきましては、一般参加者も聴講可というふうな形で実施いたしました。

次めくっていただきまして、7ページ目、アンケート結果でございます。

先ほども申し上げましたとおり、このマネジメントスクール、日本だけでなくいろいろな国で開催されております。その中で共通的なアンケートを実施してございます。こういった個別項目、例えばスクールの技術的内容であるとか、講義資料等の質、開催期間の長さ、参加目的が達成できたか、講義と組織ニーズとの合致、講義と現実社会との合致、スクールの運営、あと総合評価、こういった質問に対してそれぞれ5点満点で評価していただいたというふうなことです。

その結果ですけれども、5点満点中、4.6、4.5、4.7、4.7、4.6、4.6、4.9、4.7ということで、非常に高い評価を得ているというふうな形でございます。これは研修生に対するアンケートです。

あと、この評価以外に自由記載形式で書いていただいております。コメントを幾つか抜粋してこちらに記載させていただきます。

福島や浜岡発電所の対応状況を自分の目で確認でき、より具体的なイメージを持てるようになった。

日本の原子力プロジェクトの経験は感動的であり、個人や施設の安全性、原子力事故に対処するための手順が守られている。

日本の経験に基づいた講義は、原子力発電の運用、認識、緊急時対応などに関して、現場での体験談等からすばらしい洞察を与えてくれた。これらにより、安全・安心で成功する原子力発電プログラムを確立するために考慮すべき点について、より深い理解を得ることができた。

日本の講義は、原子力に関する日本独自の視点や経験を教えてくれた。このような講義を受けることができ、世界の原子力関連の課題をよりよく理解できるようになり、その結果、国際協力業務でよりよい成果を上げることができるようになると考えている。

このようなスクールは、原子力産業における能力を開発するために、どの新興国にとっても真の助けとなるだろう。

主催者には、NEMSを修了した参加者のための継続研究やトレーニングを検討してほしい。

こういった形でございました。簡単にコメントを紹介させていただきました。

では、次のページ、8ページ、まとめと来年のスクールに向けてということですので、全行程、予定どおり講義・施設見学を実施し、IAEAのScientific Secretary、いわゆる、Coordinatorから、さらには研修生から高い評価を得ました。IAEAのScientific Secretary、このIAEAの担当者から後日メールを頂きました。非常に日本のスクールはすばらしかったと。運営などもすごくよくて、感謝しているといったメールをこの日本側の事務局の主立った人間宛に頂きました。

二つ目ですけれども、IAEAの一部の講師、全員日本に来ることはできませんでしたので、一部の講師は遠隔での講義ということになったわけですが、リアルタイムで実施して、日本の遅い時間に入れるというふうなことで、リアルタイムでやっていただいて、双方向性を確保したというふうなことになってございます。

三つ目、2週目のテクニカルツアーでは、浜岡原子力発電所を見学、東京電力福島第一原子力発電所の見学、これら二つ、研修生からは、自分の目で確認できてよかったと、非常に

高い評価を得ました。

四つ目でございます。昨年に引き続き、N E M S 卒業生同士のネットワークを広げる試みとして、卒業生セッションを企画して、過去の J a p a n - N E M S 卒業生が今年度の N E M S 参加者と交流する機会を設けました。

その次ですけれども、こちら先ほどに引き続きトライアルなんですけれども、男女共同参画をテーマとするプログラムを実施し、一般聴講者も参加可能な機会を設けました。

先ほども申しましたけれども、日本独自のプログラムへの評価は非常に高いというふうなことで、次回も日本の状況発信をより強化したプログラムを検討したいと考えてございます。

来年ですけれども、今年と同じ時期です。8月19日から9月5日、この3週間で開催する予定になってございます。

あとは、参考資料として10ページ目、講師一覧を付けてございます。これは講義があった順番になってございます。上坂先生にも御講演いただきました。あと I A E A の担当者、あと私も1コマ講義担当させていただきました。こういった形で I A E A の方、あと東京大学の村上先生、東電から平沼さん、J A E A から野呂さん、東京大学、出町先生、あと経済産業省からは川村様、厚生労働省からは平地様、あとはメーカー3社、日立から近藤様、三菱重工から小池様、東芝エネルギーからは鈴木様、あとは原子力機構、Y a n さん、こういった方に御協力を頂いて、3週間のスクールを運営しました。

説明は以上でございます。

(上坂委員長) 中野様、御説明ありがとうございます。毎年のことですが、大変な御努力をされて、また I A E A から高い評価を受けているということでございます。

それでは、委員会の方から質疑を行います。

それでは、直井委員からお願いいたします。

(直井委員) どうも、中野センター長、御説明ありがとうございます。

今回のマネジメントスクールは何回目になりますでしょうか。

(中野センター長) 12回と思います。

(直井委員) ありがとうございます。

回を重ねて、その講義ですとか、それからグループワーク、それからテクニカルツアー、非常に組合せがよく構成されていて、また日本からの実践経験の講義も非常に充実をして、またオールジャパンで対応されているというようなところで、そのアンケート結果も非常に高いということで、素晴らしいなというふうに感じた次第でございます。

それから、昨年から始めた卒業生を招いての特別セッション、これはとてもよかったんじゃないかなと私も思います。

それで、NEMSに参加して、参加者がどういうふうにその経験を生かしているかというフォローアップというのが非常に重要だと思うんですけども、既に12回、NEMSを日本で開催しているので、卒業生も海外からで200人、日本人を入れると400名ぐらいになるかと思います。メール等で今どうしているというようなフォローアップですとか、またJAEAの人材育成センターさんとか、JICCさんもバイバイオバイオバイやマルチで世界先方の国に出掛けていって、向こうでセミナーをやるというような機会があるかと思います。そういう機会にNEMSに参加された方とインタビューをして、どうなっているかというのを実際に見に行っていただくというようなフォローアップは非常に大切じゃないかなというふうに思うので、是非やっていただきたいなと思います。

それで、日本としてこういうNEMSを海外に向けて提供しているというようなことは、国際的にも発信していくべきことだと思いますので、そういうフォローアップの結果なんかを一つのペーパーにまとめて、人材育成ですとかナレッジマネジメントのIAEAの国際会議などで発信していただけたらなというふうに思います。

私の方からはコメントだけですけども、以上でございます。ありがとうございました。
(中野センター長) 貴重なコメントありがとうございます。

(上坂委員長) じゃ、岡田委員、お願いいたします。

(岡田委員) 中野様、御説明ありがとうございます。

将来、各国のリーダーを育てる原子力エネルギーマネジメントスクールの活動は、毎年報告を楽しみにしております。参加国が14か国と海外への貢献も素晴らしいと思っております。

アンケート調査の7ページのところに書いてありましたけれども、このようなスクールは、原子力産業における能力を開発するために、どの新興国にとっても真の助けになるだろうと感想があったので、私はそのとおりだと思っております。皆様の御尽力に感謝いたします。今年は日本の女性の参加者も13名のうち2名と、それから東大の学生さんということで、女性の意識も高まってくるのではないかと楽しみにしております。

私の質問は事務的なこととなりますけれども、参加者の募集ですが、どのように募集を、特に日本の国内ですけれども、されているのかということをお聞きしたいと思いました。

(中野センター長) 日本の参加者の女性ですけども、JAIFさんの方から会員企業さん宛に募

集案内を送信して、その会員企業さんからそれぞれ応募用紙を送り返していただく、そういった形になってございます。

(岡田委員) ありがとうございます。

より広く参加者を求めるということは大事なので、特に女性にはなかなか声が届かないかもしれないので、ますます募集に力を入れていただきたいと思います。

それから、2 ページのところのグループワークですけれども、この研修生のシナリオプランニングって、去年ちょっと聞いたような気がするのですけれども、この新事業の提案で何か面白いことってありましたでしょうか。

(中野センター長) 去年は本当にいろんなアイデアが出て、面白いなと思ったのですけれども、今年は面白かったのですけれども、A I を活用するというのがちょっとブームになりまして、6 グループあったと思うのですけれども、4 グループぐらいがA I 絡みの事業を新しく展開するような感じでした。四つ、半分、正確な数は覚えていないのですけれども、かなりのグループがA I を使って新しい事業を立ち上げようというふうな発表で、それはそれで非常に面白かったです。

(岡田委員) ありがとうございます。

A I はブームだと思うので、いろんなところで使えると思います。今後とも何かいいアイデアがありましたら、是非私たちの方にもお知らせしていただきたいと思います。

それから、もう一つですけれども、男女共同参画の講演会がありましたが、今年は何か目立った感想などがありましたでしょうか。それが最後の質問ですけれども。

(中野センター長) これは昨年に引き続き、I A E Aの方が過去の女性の写真を出して、この方、誰か分かりますか、どのようなことをした方か 分かりますかみたいな形で、そういった意識を問うような、こういうことだったのですけれども、参加者からはやはり何ですか、そういった男女共同参画ということに対する意識が高まったというふうなコメントが寄せられております。

(岡田委員) ありがとうございます。

マネジメントをする人たちにとって、女性対しても今後能力を引き出していきたいという意識になっていただけると、すごくうれしいですね。本当にありがとうございました。

以上です。

(上坂委員長) それでは、岡嶋参与からも専門的な観点から御意見を頂ければと思います。よろしく願います。

(岡嶋参与) 中野センター長、どうも御説明ありがとうございました。

内容的にも、見学のところでもいろいろ配慮されている。1Fもそうですけれども、それ以外にも浜岡の発電所等があり、特に「失敗に学ぶ回廊」を、技術伝承等々をどうやっていくかという点では非常に有益なことをされているなというのは正直な感想です。私も若干グループワークについて、内容的なところを少しお伺いしたいと思っていました。

まず、この受講生全体を何グループに分け、1グループ当たり何名程度だったのでしょうかと、そのときの議論は活発だったろうと思いますが、その議論がどれぐらい続いたんだろうか、議論の様子などが気になりました。教えていただけますか。

(中野センター長) 全体が33名、32名なので、5グループ、いや6グループですね。6グループあったから5人ぐらいですか、六五、三十。多いところは6人。5人から6人のグループで6グループという形でやっていました。

あと、次の質問、何でしたでしょうか。

(岡嶋参与) 多分、いろんな国の人たちが1グループの中で構成されることになると思いますが、その中での議論の様子というのはどんな状況だったのでしょうか。

(中野センター長) 議論の様子なんですけれども、それぞれ新しい、まずこのシナリオプランニングというのはどういうことをやっていくかということ、一番まず将来これからどんなことが起きるだろうか、10年後何が起きるだろうか。例えば、為替レートが非常に高くなっちゃうとか、石油がすごく値上がりしちゃうと、逆にウランが値上がりしちゃうと。いろんな社会的な変動を考えて、それが本当に実現したときにじゃどうするかといったことを議論していて、その議論がいろいろ具体的に、数字はちょっと覚えていないんですけれども、いろんなことをよく想像つくなというふうな形で議論していたというのを覚えていますけれども、何かもし補足ございますか。

(鳥羽プロジェクトアドバイザー) そうですね、私からですが、非常に日本人の参加者の方が活発でして、英語も上手ですし、積極的に参加をした。通常ですと、海外の方の方が議論が得意なので、圧倒されてしまうことがあるんですけども、日本からの参加者もその中に加わりまして、対等にやっていただいたというのが今年の特徴かなと思っております。

(岡嶋参与) ありがとうございます。

是非そういう場をたくさん設けていただくような形で、いろんな国の価値観とかを知りながら、世界共通の課題を考えていただくのがいいのかなと思っていますので、これからは是非よろしくお願ひしたいと思っています。

私からは以上です。

(上坂委員長) それでは、上坂の方から幾つか意見を述べさせていただきますけれども、まず2ページにスクールの内容があります。もう御説明がありましたが、私も8回までそちらと一緒にやっていました。前の話をさせていただくと、このNEMSは2010年にIAEAがヨーロッパ、イタリア、トリエステで始めたのが始まりで、2年遅れで日本が2012年から始めて、12回目と。ただ、コロナがありましたので、遅れたり延期がありましたね。その後、ロシア、アフリカ、アメリカ、中国でシリーズが始まって、6シリーズが今、世界で行われている。そして6年ほど前、カリキュラムを標準化しようという議論がIAEAで始まっていた。そして中野センター長からお話があったように、このページの上の方にあるように、コアトピックスはIAEAスタンダードでやると。そして、残りの3割は各地域の特徴を出してやってくれと。こういう内容だったと思うのですね。

それで、日本の場合、福島東電事故。そこからの安全の教訓ですね。そこから始まっていた。特にまた見学を入れるということで。福島の1Fの見学。2Fをやったときもあったと思います。

それから、メーカーの工場、JAEAの研究所、それから福島での研究所等の見学もやります。そういう内容が非常に特徴で評判が高いと思います。

今回、浜岡に行かれたということで、これは2回目だったのですが、この防波壁、写真もありますが、この前で参加者は写真を撮っていました。今の日本の原子力の安全対策の象徴のような施設と一緒に写真です。海外の参加者からの感想はいかがでございましたでしょうか。

(鳥羽プロジェクトアドバイザー) やはりこの防護壁といいますのは、見た感じのインパクトが大きいんで、ここまでやっているのかという印象が非常に強かったです。

(上坂委員長) そうですね。

(鳥羽プロジェクトアドバイザー) また、上に上がれるように、付け根の方ですが、なっておりますので、そこから全体を見渡しますと、高さだけではなくてその規模感というのも分かりますので、ここまで徹底しているなという印象を海外からの参加者の方に持ってもらえればと思っております。

(上坂委員長) そうですね。私が行ったときの8年ほど前は、これは建設中だったのですよ。ですから、そんな高くなかった。本当、インパクトが大きいかなと思いました。

それから、来年に向けてなので、まだ御検討いただければと思うのですが。来年にはBW

Rが再稼働になっていると思います。今年のNEMSでも少し議論があったかと思うのですが、是非再稼働になったらBWRの見学。ちょっと日程が厳しいかと思うのですが、女川2号辺りが可能性あるかなと思うのですが、そこら辺いかがですか。

(中野センター長) 本日、報道で女川が月末に起動予定とありましたが、実は今年は女川の見学を一応試みたんですけれども、再稼働前で余りにも多忙だということで、ちょっとその御事情を拝察して御遠慮申し上げたという形で、来年は是非ともトライしてみたいと思っています。

(上坂委員長) それから、参加者の選抜に当たり、事前に原子力の基礎知識の試験をやりますよね。これはIAEAのシステムを使って事前の試験。終わる前日ですか、成果確認の試験があるのです。その結果はどうでしたでしょう。

(中野センター長) まず、事前の方ですけれども、事前の方も例年、まず事前学習をやって、学習を終えた後にテストをやって、その結果をもって合格した人だけが最終の選抜に進むという形なので、今回そこで落ちた人は非常に少なかったです。最後の、実際スクールに3週間参加した後に、最後に修了証をもらえるかどうかに係っている最後の試験ですけれども、こちらの方も今回は追試なしということだったので、点数的にも非常によかったし、日本人が特に例年に比べて成績がよかったというふうに採点者からは聞いております。

(上坂委員長) すばらしいことですね。

それから、日本の参加者ですけれども、資料がありましたが、メーカー、発電所、それから電力会社ですね。それから、JAEAから合計約20名程度なのですが、彼らは日頃必ずしも英語で業務することが多くなくて、最初は内気な人も多いと。けども、だんだんとグループワークをやりながら英語にも慣れて。先ほど鳥羽さんからお話を伺っていると、日本人の方が積極的に発言していたというのはとてもいいことかなと思います。また修了生の方と話しても、それまでは英語で議論することはなかったと。だけど、今回これスクールで初めてそういう機会が得られて、本当に刺激になったと。それで、どんどん視野とか仕事が国際的になったとか。そういう話も伺っています。そういう意味ではこの日本人の参加者にとっては、まさに日本の人材の国際化。ネットワークの分科会の名前のとおりの成果が出ているのではないかと思いますね。

それから、講義のリストがあります。講義の7ページ。評価があった。この中でどうですか。今年の場合、特に人気の高い講義はどれでしたかね。

というのは、以前ですと例えば日本原燃現社長の増田氏の1F2の所長時代の3. 11時

の危機管理のドキュメント的な講義とか、それから現東電柏崎刈羽発電所所長の稲垣氏のフクシマ50の一人としての危機回避の実体験などの講義がとても人気があったのです。どうですか、今年は。

(中野センター長) 今年は全般的に評判がよかったんじゃないかなと思います。と申しますのは、過去、上坂先生おっしゃるように、この講義がよかった、この講義がよかったというのがあったんですけれども、今年はどの、日本側の御意見でもよかったというふうにコメントを書きいただいているので、本当によかった。

もちろん、1F関係の講義、興味を引いたと思うんですけれども、そのほかの講義についてもすごく好評だったと考えております。

(上坂委員長) この7ページの二つ目ですけれども、日本の原子力プロジェクトの経験は感動的でありと書いてあるのです。具体的にはどのことを言っているのですか。

(中野センター長) これは施設見学のことだと私は思っています。

(上坂委員長) そうですね。施設見学の方ですね、他のNEMSに比べて非常に日本のNEMSは多くて、それはいい特徴だと思いますよね。

それから、6ページの卒業生セッションで、今回は海外の卒業生2名をリモートで参画を頂いたと。そのうち1名が女性で、多分この写真の方だと思うのですが、IAEAの幹部職員で活躍とのことですよ。まさにこれはNEMSの修了生の最高のキャリアパスであり、ロールモデルではないかと思います。今回の参加者の先輩への印象とか反応はいかがでしたか。

(中野センター長) 質疑応答で、どうやったらこういったIAEAの幹部職員になれるんですかというような質問もあったんですけれども、IAEAに限らず、自分が国の重要なポジションに就くための努力と、それと変わりませんから皆さん頑張ってくださいね、みたいなコメントでした。

(上坂委員長) 例えば9月24日の原子力人材育成戦略ロードマップの説明をネットワークの方から頂きました。その中の戦略の一つに、国際機関にその職員を輩出していくということがあって、なかなかこれが達成されていないということでした。それで、海外の参加者約20名の半分が政府系の行政官なんですよ。日本はさっき申し上げたように、メーカー、電力会社、それからJAEAなのですよ。ですから、技術者ですよ。ですから、今後リクルートの件で、もちろん選抜があるのでそこを通らなければいけません。そういう国際公務員を目指すような方を参加させて、まさに先ほどの卒業生の方と、本当にネットワーク組め

ば、どんどん道が開けていくのじゃないかと思うんですけれども。どうですか。今後、特に日本のNEMS参加者の選抜の仕方ですね。リクルートの仕方ですね。そういうようなポテンシャルの方もリクルートした方がいいのではないかと思うのですが、いかがでしょう。

(中野センター長) ありがとうございます。

おっしゃるとおりでございます。ちょっとそれ確かに盲点でございます。ちょっと来年に向けて検討をさせていただければと思います。

(上坂委員長) これが最後です。7ページの最後にある修了生、その継続教育やトレーニングをと。これも参加者の方からそういう希望が出ているということでもあります。

もう既に委員の方々から質問がありましたけれども、是非そのフォローアップが重要だと思うのですよね。それで、今年のIAEA総会でNEMSのサイドイベントがあって、冒頭私が申し上げた世界の六つのNEMSの報告会と議論があったということでもあります。その中でも日本のNEMSは非常にいい評判といたしますか、質がいいという評判を得たというふうに伺っております。この件、鳥羽さん、御出席されて、いかがでしたでしょうか。IAEA総会時のサイドイベント。

(鳥羽プロジェクトアドバイザー) 日本の経験をサイドイベントの方で紹介させていただきまして、またその際にはIAEAに今いる人を中心なんですけれども、各NEMスクールのOB、OGが参加されまして、その中でそれぞれの経験を紹介という形になります。ほかの国のNEMSの経験等もその中では紹介されておりましたけれども、日本の経験というのは、NEMSというのが一番まとまった形で、また長期にわたって行っておりますので、サイドイベントの中でも目立っていたんじゃないかというふうに思っております。

(上坂委員長) 私もIAEAの総会へ行きますと、今までの11回の修了生の方から声掛けられるのですよ。それはとてもうれしいことです。多く修了生の方がIAEAの様々な会議に参加されています。

それで、さっき直井委員がおっしゃられたように、日本のNEMSはもう12回なので、もう400名程度の修了生の数で。それを世界6シリーズで見るともう2,000人だとIAEAから伺っています。

それで、毎年暮れにこの六つのNEMSの評価会議があるのですよね。是非その場で修了生のシンポジウムをやる企画をIAEAに趣旨を提案していただければと思うのですけれども。

今年3月にFor More Women in NuclearというIAEAのシン

ポジウムがありました。私は行って、冒頭のパネルセッションに参加したのです。マリ・キュリー・プログラムという学生向けの奨学金制度と、それからリーゼ・マイトナー・プログラムというセミナーの参加者約400名のシンポジウムだったのですよ。とても大規模なシンポジウム。是非世界のNEMSの修了生のシンポジウムを提案して、実施いただければ。

今、鳥羽さんからお伺いしましたけれども、それからここにもお話がありましたけれども、もう既にIAEAの職員になった方がいますよね。そういう方々にも中心になって動いていただいて、修了生のシンポジウムを是非やっていただき、更にネットワーキングを強くして、みんなで世界で活躍してほしいですね。いかがですか。

(中野センター長) ありがとうございます。

去年のIAEA総会などのシンポジウムも、実は私どもがああいうのをやろうやろうというのをずっとIAEA側に提案して、最初は、いやそれは駄目だよと言われたんですけども、結局、蓋を開けてみると、あ、やったなという感じだったんですけども。そういった形で今度、まだ日程は決まっていませんですけども、会議のときにそういった話をできればと思います。

(上坂委員長) 是非そういう機会ができましたら、是非日本の参加者も、少なくとも2桁ぐらいは参加するようにしていただければよろしいですね。

私からは以上でございます。

ほかに委員の方々から追加で御質問等ございますでしょうか。

(岡田委員) ありません。

(上坂委員長) それでは、どうも御説明ありがとうございました。

議題(1)は以上でございます。

次に、議題(2)について、事務局から説明をお願いいたします。

(山之内参事官) 二つ目の議題は、中国電力株式会社島根原子力発電所の発電用原子炉の設置変更許可(2号発電用原子炉施設の変更)について(答申)となります。

9月11日付で原子力規制委員会から原子力委員会に諮問がございました。これは、原子力規制委員会が発電用原子炉の設置変更許可を行うに当たり、原子炉等規制法第43条の3の6第3項の規定に基づき、発電用原子炉が平和の目的以外に利用される恐れがないことの基準の適用について原子力委員会の意見を聞かなければならないこととされていることによるものになります。本日はこの諮問に対する答申について御審議をお願いしたいと思います。

それでは、事務局の新井主査が説明いたします。

(新井主査) 事務局から説明させていただきます。議題(2)についてです。

お手元の資料の右上の第32回原子力委員会資料第2号を御覧ください。

こちら、中国電力株式会社島根原子力発電所2号炉に関しまして、原子炉施設の変更に係る答申案とあります。答申案の内容につきましては、裏面のページを御覧ください。

本件申請につきましては、1ポツです。発電用原子炉の使用の目的を変更するものではないこと。

2ポツです。使用済燃料については、再処理法に基づく再処理等拠出金の納付先である使用済燃料再処理・廃炉推進機構から受託した核燃料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づく指定を受けた国内再処理事業者において再処理を行うことを原則とし、再処理されるまでの間、適切に貯蔵・管理するという方針に変更はないこと。

3ポツです。海外において再処理が行われる場合は、再処理法の下で我が国が原子力の平和利用に関する協力のための協定を締結している国の再処理事業者において実施する、海外再処理によって得られるプルトニウムは国内に持ち帰る、また、再処理によって得られるプルトニウムを海外に移転しようとするときは、政府の承認を受けるという方針に変更はないこと。

4ポツです。上記以外の取扱いを必要とする使用済燃料が生じた場合には、平成12年330日付で許可を受けた記載を適用するという方針に変更はないことの妥当性が確認されていること。加えて、我が国は当該発電用原子炉も対象に含めた保障措置活動を通じて、国内の全ての核物質が平和的活動にとどまっているとの結論をIAEAから得ていること等を総合的に判断した結果、当該発電用原子炉が平和の目的以外に利用される恐れがないものと認められるという答申となっております。

簡単ではございますが、以上となります。よろしく申し上げます。

(上坂委員長) 説明ありがとうございます。

それでは、質疑を行います。

それでは、直井委員からよろしく申し上げます。

(直井委員) どうも御説明ありがとうございました。

今回の島根2号の特重施設等の第3バッテリーの設置に関わる設置変更におきまして、島根2号が原子力を平和の目的以外に利用される恐れはないと考えられますので、この答申のとおりでよろしいかと思います。コメントは特にございませぬ。

(上坂委員長) では、岡田委員、お願いいたします。

(岡田委員) 御説明ありがとうございます。

私の方も平和目的以外に利用される恐れがないものと認められると思います。

以上です。

(上坂委員長) それでは、岡嶋参与からも御意見を頂ければと思います。

(岡嶋参与) 御説明ありがとうございました。

私の方も今回の設置変更については特段大きなコメントはございません。平和目的以外に利用される恐れはないと思われます。よろしくお願いします。

以上です。

(上坂委員長) 私も先週、規制庁とこの変更内容について詳細に議論いたしましたので、把握しておりますので、このとおりでよろしいかと考えております。

じゃ、よろしいでございましょうか、委員の方。

それでは、本件につきまして、案のとおり答申することよろしいでございましょうか。

じゃ、御異議ないようですので、これを委員会の答申とすることといたします。

議題(2)は以上でございます。

議題(3)について、事務局から説明をお願いいたします。

(山之内参事官) ありがとうございます。

三つ目の議題は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所(南地区)の原子炉設置変更許可(高速実験炉原子炉施設の変更)について(答申)になります。

9月4日付で原子力規制委員会から原子力委員会に諮問がございました。これは原子力規制委員会が試験研究用等原子炉の設置変更許可を行うに当たり、原子炉等規制法第24条第2項の規定に基づき、試験研究用等原子炉が平和の目的以外に利用される恐れがないことの基準の適用について、原子炉委員会の意見を聞かなければならないこととされていることによるものになります。

本日は、この諮問に対する答申について御審議をお願いしたいと思います。

それでは、事務局の同じく新井から説明いたします。

(新井主査) 御説明させていただきます。

右上、第32回原子力委員会資料第3号を御覧ください。

こちらは、日本原子力研究開発機構大洗研究所の高速実験炉原子炉施設の変更に係る答申案とあります。

答申案の内容につきましては、裏面の別紙を御覧ください。

本件申請につきましては、1 ポツです。高速実験炉原子炉施設を、一般研究、材料照射及び放射性同位元素の生産に関する研究開発に使用するために、使用の目的を追加するものであり、その利用は平和目的に限られていること。

2 ポツです。使用済燃料については、国内又は我が国の原子力の平和利用に関する協力のための協定を締結している国において再処理を行うこととし、再処理のために引き渡すための間、高速実験炉原子炉施設の使用済燃料貯蔵設備にて使用済燃料を適切に貯蔵・管理するという方針に変更はないこと。

3 ポツです。海外再処理を行うに際しては、政府の確認を受けることとする。海外再処理によって得られるプルトニウム及び濃縮ウランは国内に持ち帰る又は海外に移転する、また再処理によって得られるプルトニウム若しくは濃縮ウランを海外に移転しようとするときは政府の承認を受けるという方針に変更はないことと妥当性が確認されていること。「加えて」以降は先ほどお話しさせていただいた同様の記載でございます。

以上をもって、当該試験研究用等原子炉が平和の目的以外に利用される恐れはないものと認めるという答申となっております。

簡単ではございますが、以上となります。よろしくお願いします。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは、質疑を行います。

直井委員からよろしくお願いいたします。

(直井委員) どうも新井さん、説明ありがとうございます。

今回の「常陽」の使用目的に、R I 製造・研究などに加える設置変更許可におきましては、「常陽」が原子力の平和の目的以外に利用される恐れはないと考えられますので、特にコメントございません。

以上です。

(上坂委員長) じゃ、岡田委員、お願いします。

(岡田委員) 御説明ありがとうございます。

私の方も平和の目的以外に利用される恐れがないと認められます。

以上です。

(上坂委員長) 岡嶋参与からも御意見を頂ければと思います。

(岡嶋参与) 私の方も今回の「常陽」の目的の追加という点では、特にR I の生産用の実験、それに関わる研究開発ということになります。今後ますます研究開発の機会が増えるという

ことは、平和目的に限られているということもあり、喜ばしいことではないかと思っていますので、特にコメントはありません。

以上です。

(上坂委員長) 上坂も今回の変更許可につきまして、詳細に前回規制庁と質疑を行って、内容を十分理解いたしましたので、この案でよろしいかと存じます。

ありがとうございました。

それでは、本件につきまして、案のとおり答申することによってよろしいでしょうか。

御異議ないようですので、これを委員会の答申とすることといたします。

議題(3)は以上でございます。

次に、議題(4)について、事務局から説明をお願いいたします。

(山之内参事官) 今後の会議予定について御案内いたします。

次回の定例会議につきましては、日時、10月15日火曜日、14時から、場所としては中央合同庁舎8号館6階623会議室、議題については現在調整中でございます。原子力委員会ホームページなどによりお知らせいたすつもりでございます。

以上でございます。

(上坂委員長) ありがとうございます。

その他、委員から何か御発言ございますでしょうか。

(岡田委員) ありません。

(上坂委員長) 御発言ないようですので、これで本日の委員会を終了いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

—了—